



重要文化財 本殿

## 鹿島神宮 参拝のしおり



### 交通機関案内

東京方面より

東京駅八重洲南口より高速バス「鹿島神宮駅」行  
約二時間「鹿島神宮」下車徒歩五分

千葉方面より

JR鹿島線「鹿島神宮駅」下車徒歩十分

水戸方面より

鹿島臨海鉄道大洗鹿島線「鹿島神宮駅」下車徒歩十分

高速道路

東関東自動車道「潮来インター」より十五分

一般道路

水戸より国道五一号 約一時間十分

銚子より国道一二四号約五十分

佐原より国道五一号 約三十分

香取神宮へは

東関東自動車道「佐原香取インター」より五分

鹿島神宮より約三十分

〒三二四一〇〇三二 茨城県鹿嶋市宮中三三〇六一

鹿島神宮社務所 電話〇二九九八二二二〇九

FAX〇二九九八二二一六二五

ホームページアドレス <http://www.tokukuden.or.jp/~kashima/>

メールアドレス [kashima@tokukuden.or.jp](mailto:kashima@tokukuden.or.jp)



重要文化財

「奥宮」

慶長十年（一六〇五）将軍徳川家康公が本殿として奉納されたものを元和の造営の際に引き移したものです。



重要文化財  
「梅竹蒔絵鞍」

源頼朝が建久2年(1191)に奉納した神馬に付けられていた鞍で戦乱が起これぬよう祈願を籠めて奉納したと「吾妻鏡」に見えております。



重要文化財

「楼門」

寛永11年(1634)水戸藩初代藩主徳川頼房公の奉納。この楼門の秀麗な造りは、九州の阿蘇神社、苜崎宮とともに日本三大楼門に数えられています。

御祭神  
武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）

鎮座地

茨城県鹿嶋市宮中（常陸国鹿島郡）

水郷筑波国定公園に含まれる鹿島台地は怒涛逆巻く鹿島灘を東に配し、西は水煙茫茫と広がる北浦、霞ヶ浦や水郷地帯を望むことが出来ます。この台地の千古の森に有史以来の歳月を重ねて大神は鎮まられます。

社格

勅祭社 旧官幣大社（現別表神社）

常陸国一の宮 全国の鹿島神社の総本宮

御事歴

神代の昔、天照大御神の命を受けた武甕槌大神は香取の経津主大神（ふつぬしのおおかみ）とともに出雲国に向かわれ国譲りを成就し、皇孫すめみまの国たるべき日本の建国と建設に挺身されました。とりわけ東国における神功はきわめて大きく、関東開拓の礎は遠く大神にさかのぼります。

後に神武天皇はその御東征なかばにおいて思わぬ窮地に陥られました。大神の「誦霊剣（ふつのみたま）のつるぎ」の神威により救われました。この神恩に感謝された天皇は御自らの御即位の年、大神を鹿島の地に勧祭されました。

皇紀元年、即ち紀元前六六〇年の頃といわれています。

重要文化財 本殿、石の間、幣殿、拝殿、仮殿

当神宮の社殿はその昔伊勢の神宮のように二十年ごとに造営が行われていましたが、現在の社殿は元和五年（一六一九）二代将軍徳川秀忠公により奉納されました。

天然記念物 鹿島神宮樹叢（茨城県指定）

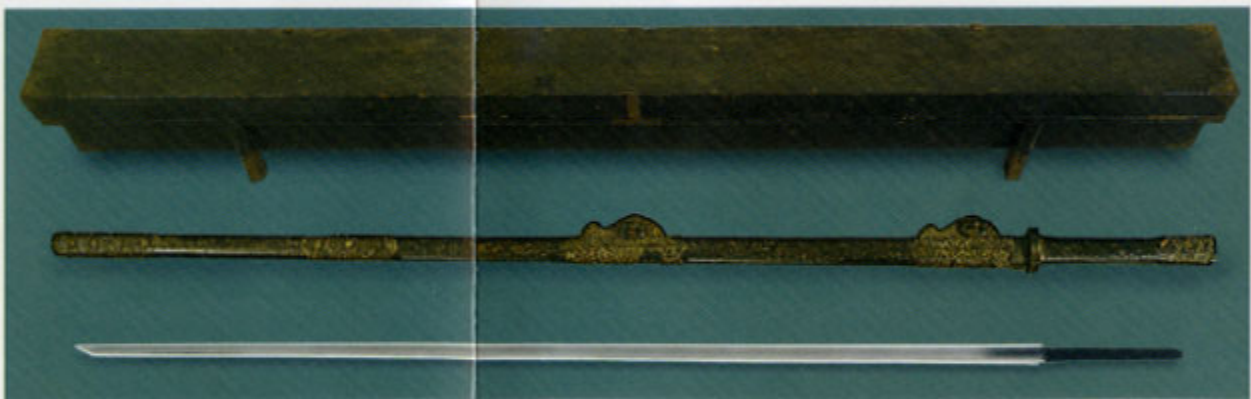
七十八クatorial、二十一万坪の樹叢は照葉樹林の北限、フウランなどの北限をなし、八百種を超える植物の宝庫であり、奥参道はまさに神の森と言える荘厳な雰囲気です。



鹿島神宮路年表

年号 事項

- 神武天皇元年 社殿を葺立す。(社例伝記)
- 崇神天皇御代 神示により天皇は中臣神間御命に命じて大刀、鉄、鉄の弓、鉄の箭、肝馬、杖、練鉄、馬、鞍、八咫鏡、五色の栴を神の宮に納め奉らしめた。
- 倭武天皇御代 (七一〜一三〇) 大神中臣臣孫山命に宜り給うにより新たに舟三隻を造り献る。(常陸国風土記)
- 神功皇后御代 (二〇〇〜二六九) 三韓征伐に鹿島の大神が守護し給ひしことにより報費として皇后御履帯を奉納。  
これより安履の信仰起る。(鹿島古史)
- 天智天皇御代 造宮に初めて使人を派遣これより修理絶えず年別の七月舟を造る。(常陸国風土記)
- 大化五年 (六四九) 中臣鎌子、中臣部免子等総領高向の大夫に請いて下能及那珂国を割きて神の郡を置く。(常陸国風土記)
- 大宝元年 (七〇一) 詔して神宮及板殿を造る又造宮の年期を定めて二十年とす。(当神宮式年御造宮のはじめ)(鹿島古史)
- 慶雲元年 (七〇四) 常陸国司媛女朝臣トえて殿治佐藤大原呂等を率いて鹿島に米り神山の砂鉄を探りて剣を造る。(現国宝「直刀」の制作年代と同年代である)(常陸国風土記)
- 神護景雲二年 (七六八) 御分靈を奈良に奉遷し春日社を造立す。(帝王編年記)
- 延長五年 (九二七) 鹿島神宮、名神大社、祈年祭に官幣案上の奉幣、月次祭、新嘗祭に預る。(延喜式)
- 建久二年 源頼朝神馬司鞍奉納。(古文書)
- 仁治二年 当神宮炎上、但し本殿奥御殿は焼かず。(二二四)
- 慶長十年 御造宮、徳川家康関ヶ原の戦勝報費に奉納。(現奥宮社殿是なり)(古文書)
- 元和五年 (二六一九) 御造宮、徳川二代将軍秀忠奉納により現在の本殿、石の間、幣殿、拝殿、等造宮成る、同時に僅か十四年前奉納の本殿を引き壊し新造す。(古文書)
- 寛永十一年 樓門廻廊忌垣百三十間造宮、水戸藩主徳川頼房奉納。(古文書)
- 明治四年 官幣大社に列せられる。
- 明治四十二年 御本殿大修理
- 大正十二年 拝殿大修理
- 昭和四年 天皇陛下行幸
- 昭和二十九年 式年大祭勅使参向、奥宮社殿大修理
- 昭和四十一年 常陸宮同妃両陛下御参拝
- 昭和四十四年 皇太子陛下御参拝
- 昭和四十五年 本殿以下四棟修替工事完成
- 昭和四十九年 天皇皇后両陛下行幸啓
- 平成四年 今上天皇皇后両陛下行幸啓 (一九九二)



▲国宝  
「直刀」金銅黒漆塗平文持附刀唐櫃

日本最古最大の直刀で、制作年代は今から約1300年前と推定されます。常陸国風土記に、慶雲元年、国司等が鹿島神宮の神山の砂鉄で剣を作ったとあり、その剣であろうともいわれております。古くは本殿内に納められていた神刀で、御祭神の神剣諸靈剣(ふつのみたまのつるぎ)の名も伝えられています。



要石

要石は鹿島七不思議の一として知られ、世俗に地割を起す鯨の頭を押さえる石として知られます。古来「山の宮」「御座石」などの別名を持ち、掘っても掘りきれない石といわれます。

御手洗(みでらひ)

古来神職並びに参拝者の清潔の池。その水は美しく澄み絶えず滾々と流れ出る霊泉です。神代の昔、大神が天曲弓で穿たれたとも、宮道の折一夜にして湧出したとも伝えられ、大人子どもによらず乳を過ぎずということまで不思議に数えられています。大昔は当神宮の参道がこの御手洗を起点としてこの池で身を清めてから参拝するので御手洗の名が今に残されています。



▲「百馬図」雪村筆

この百馬図は雪村が当宮に百日間参籠し描いた絵で、簡素な筆使いにより一層馬の動きを見事にとらえています。また、絵には一枚ごとに「奉進納鹿島大神宮」と書かれています。



## THE KASHIMA JINGU SHRINE

Location: Kyuchu Kashima-shi, Ibaraki Prefecture

The Kashima Jingu Shrine is dedicated to Takemikazuchi-no-Okami, a god of peace and martial valor. In the Mythological Age, the god descended to the Izumo District of Japan. Okuninushi-no-Mikoto had ruled according to the order of Amaterasu Omikami or the Sun goddess (the ancestral goddess of Emperor of Japan) and unified Japan together with Okuninushi-no-Mikoto in obedience to the direction of Amaterasu-Omikami.

After unifying Japan, he traveled throughout the country and finally settled down in Kashima, an important center of land and water traffic to work for the development and management of the Kanto District. In Kashima, he was enshrined as a strong god of Peace.

In the Nara and Heian Periods, it was the custom to raze the buildings of the Kashima Shrine every 20 years and erect new ones on adjacent plots. In those days, the Imperial messengers as famous for Kashima-Zukai were frequently dispatched to the shrine. And this is the Origin of the Old Tokaido-Line. In the Middle Age, the shrine was worshiped especially by warriors such as Minamoto Yoritomo, the founder of the Kamakura Shogunate, as the god of martial valor.

The present Main shrine was donated by Tokugawa Hidetada, the second Shogun of Tokugawa Shogunate. The Inner Shrine by Tokugawa Ieyasu, the founder of the Tokugawa Shogunate, and the shrine gate by Tokugawa Yorifusa, the first lord of the Mito District. All four buildings adding the temporary shrine were designated by the Government as "important cultural properties". And the sword called Futsu-no-Mita-ma-no-Tsurugi is the sole "national treasure" in Ibaraki Prefecture.

The annual festival of the shrine is held on September 1 with the attendance of Imperial messengers. On the Occasion of the grand festival called the Mifune-Matsuri held every 12 years, an Imperial messenger formally visits the shrine.

Those who study the law of chivalry in the world regard the Kashima shrine as the Mecca for them. This is because "Shingo" (a sacred hanging scroll) of the Kashima Shrine is hung on the walls of exercisehalls in many countries of the world.

Thus the Kashima Shrine is worshiped by many people throught the country as a shrine of very high dignity.



祭頭祭  
三月九日に行われる祭頭祭は、神宮を境とした南北六十六郷現在は北郷二十四、南郷二十六の内から卜定された二郷によつて奉仕される鹿島神宮固有の祭りです。祭りは五歳位の新発意をそれぞれ立て、先色鮮やかな祭衣をまとつた一団十五、六名が十組ほどずつで、六尺の檜の棒を組んではほくしながら神前へと進む囃しを中心にして行われます。



御船祭  
御船祭は十二年に一度、午年に執り行われます。  
その歴史は凡そ千七百年前、応神天皇の御代に祭典化されたと伝えられ、戦国の動乱によつて中断されるまで「我が朝第一の祭礼」と喧伝されてきました。  
今の御船祭は明治三年に再興されたもので、御分靈をお遷した神輿に二千名が供奉して北浦湖畔の大船津まで行き、そこから色鮮やかな五色の吹き流しや龍頭を飾りつけた「御座船」に神輿を安んじ、幟旗や大漁旗に飾り付けた船団の供奉を従えて約十一キロを佐原に向かって進み香取神宮のお迎えを受けます。  
この湖上で繰り広げられる一大絵巻は、鹿島、香取両神宮の御鎮座の由緒と人々の東国開拓の足跡を伝える社歴なお祭りとして今に伝えられています。